

業界ヒアリング資料

(CLOMA・日本石鹼洗剤工業会・日本化粧品工業会)

CLOMA : クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス

2025年7月

当3団体としての共通スタンス

持続可能な社会に貢献するために、プラスチック資源循環（再生材の積極活用）に前向き取り組んでいく方針です。

- ・ 使用済物品等の回収体制の整備状況、再生材の分離・再利用の技術的可能性について。

※一部企業による実証実験（参考資料）により得られた知見より

＜回収体制の整備状況＞

○現状

- ・ 容器包装リサイクル法に基づき、自治体による回収体制は整備されている
容リ協データによると、回収物の構成は、石鹼・洗剤関連容器が約10%、食品容器が40～60%である
- ・ 自治体回収では、他の容器と混合回収されるため、リサイクラーでの日用品・化粧品の容器の分別は技術的、コスト的な課題があり、個社による全国規模の回収体制構築には至っていない

○期待される回収体制

- ・ 石化由来バージン材と同価格、同品質のマテリアルおよびケミカルリサイクル材が入手可能な回収体制

＜再利用の技術的可能性＞

○現状

＜ポリオレフィン樹脂＞

- ・ 衛生性・品質同一性などの要求性能の観点から、マテリアルリサイクル再生材では使用割合に限界がある

＜PET樹脂＞

- ・ 飲料以外でもマテリアルリサイクルによる再利用の可能性があるが、原料として選別回収は行われていない
- ・ 食衛法準拠の再生PETをトイレタリー容器に使用する企業が多数

○期待されること

- ・ 衛生性・品質同一性が確保されるマテリアルリサイクル技術の開発
- ・ 自治体回収されたプラスチックをリサイクル可能なケミカルリサイクル製造技術の開発

- 現状の再生材利用量と将来に向けた拡大可能性（再生プラスチックの利用拡大に向けた業界の取組状況、今後の業界ロードマップ等）について。

<CLOMA>（プラスチック使用量 約45万トン）

- **中期目標：** Circular 30by30 「2030年までに容器包装に30%再生材を利用」 ※プラ容器利用・幹事企業9社

<日本石鹼洗剤工業会>（プラスチック使用量 約6万トン）

- **目標設定：**

第4次自主行動計画にて、2030年までにバイオマスプラ＋再生プラの使用量を2020年実績の約5倍以上を目標（再生プラ単独の目標は未設定）

- **長期目標：**

2030年以降の目標は、未設定

<日本化粧品工業会>（プラスチック使用量 約2万トン）

- **設計指針：**

2022年6月に「容器包装に関する環境配慮設計指針」を発行。再生プラスチックの使用を推奨

- **制度対応：**

プラスチック資源循環法（プラ法）に基づく設計認定制度が2025年7月に公示予定、2026年1月に認定開始予定

- **認定基準：**

化粧品容器の設計認定項目に、再生プラスチックの使用量基準が設定される予定

- ・ 指定脱炭素化再生資源利用促進製品の対象になることで、再生材の供給拡大や技術開発促進につながると考えるか。

＜現状の課題＞

- ・ 再生材の供給拡大や技術開発の促進に対して一定の効果はあると考えるが、その需給体制確立のためのスケジュールが不明確なことが課題と考える
- ・ 政策の認知・実行にかかる時間により、効果の遅れが生じることが懸念される

＜投資判断の障壁＞

- ・ CLOMA会員のプラ供給企業からは、投資判断を進めるためにも、早期での定量的義務化を求める声強い

＜供給拡大に向けて目指すべき方向＞

- ・ いつ、どの程度の再生材市場が出来るかの見通しと、石油由来のバージン樹脂との価格差是正対応が重要
- ・ 容器として下記の条件を満たせば、使用量の拡大により供給拡大に繋がっていくと考える
 - 価格：石油由来のバージン樹脂と同等
 - 品質：食品衛生法に準拠 → 国の策定する新たなリサイクル基準（品質の緩和）に準拠
 - グレード：同等

- 足切り基準（生産量又は販売量の要件）、スケジュールは問題ないか。
- 判断基準、計画・定期報告の内容は今後省令において規定していくが、現時点で留意すべき事項はあるか。

<足切り基準>

- 日本容器包装リサイクル協会の委託料金事業者リストを基準に選定すれば、明確かつ迅速な判断が可能と考える
- 委託料金を未公開または未払いの企業には指導を実施することも検討すべき
- 足切り基準が高すぎると、対象となる企業が少なくなることより、実効性が懸念されるので、段階的に引き下げていく計画も当初計画には必要と考える
- 再生プラスチックの利用促進にあたっては、**業界ごとの規制や用途の違いを踏まえ、公平な基準の適用**も検討すべき

<スケジュール>

- 足切り基準は、政令（閣議決定）であるため、このスケジュールが最速と想像するが、政策の認知・実行にかかる時間による効果の遅れが生じなくする対応も期待する

- 足切り基準（生産量又は販売量の要件）、スケジュールは問題ないか。
- 判断基準、計画・定期報告の内容は今後省令において規定していくが、現時点で留意すべき事項はあるか。

＜現時点で留意すべき事項＞

- **ゴールとロードマップの明確化：**

本計画の最終目標と達成までの道筋（ロードマップ）を明示する

- **インセンティブの提示：**

目標達成後のインセンティブを準備し、計画と合わせて提示する

- **報告案の事前作成：**

目標設定や計画依頼の前に報告案を作成し、対象企業の意向を十分に反映させる

- **柔軟な運用：**

供給状況（再生材の供給量や価格）に応じて、スケジュールや手段を変更可能とし、目標も状況に応じて調整できるようにする。また、その変更は定期報告の中で記載可能とし、**柔軟性を持たせることが重要**

- その他、再生プラスチックの利用に関し考慮すべき事項について。

＜日本石鹼洗剤工業会＞

・安全性基準の適用：

食器用洗剤の容器は、食品衛生法の「器具及び容器包装」規定の対象となり、食品と接触するため厳格な基準への適合が必要

・その他洗剤類（洗濯用・柔軟剤・住居用）：

食品には直接触れないが、安全性確保のため食品衛生法に準じた材料を使用している

＜日本化粧品工業会＞

・品質・安全性の要求水準が高い：

化粧品は、人体に直接触れもしくは摂取されるものであり、さらに長期にわたる品質保証が必要となる
（使用期限を特定しない場合は、品質保証期間は3年）

消費者の安全性を確保すべく、容器包装の衛生性（安全性）食品衛生法準拠のプラスチックを用いている
（出所： 日本化粧品工業会、安全性評価指針2022）

參考資料

2022年 容リ協データ

			プラ委託料 (1トンあたり)	53000 円
主たる業種	合計 / プラスチック製 容器包装	個数 / 特定事業者名	プラ量 (トン)	割合
食料品製造業	10313476073	1887	194,594	37%
その他の卸売・小売業	5062214392	1684	95,513	18%
食料品卸売・小売業	3550659787	1945	66,994	13%
油脂加工製品・石けん・合成洗剤・界面活性剤・塗料製造業	3100312469	54	58,496	11%
その他の製造業	2351605764	1377	44,370	8%
清涼飲料・茶・コーヒー製造業	1313917118	145	24,791	5%
医薬品製造業	850734933	181	16,052	3%
化粧品・歯磨・その他の化粧用調整品製造業	575678877	105	10,862	2%
その他の業種	269653328	384	5,088	1%
サービス業	176916376	428	3,338	1%
農林・漁業	164071494	322	3,096	1%
酒類製造業	79225124	210	1,495	0%
医薬品卸売・小売業	70154862	143	1,324	0%
酒類卸売・小売業	14405314	129	272	0%
苗、種子卸売・小売業、花、植木卸売・小売業	6569519	76	124	0%
			526,407	

日用品容器包装に関するリサイクル課題整理の検討例

- 業界団体としての取組： CLOMA

令和7年度「資源自律経済確立産官学連携加速化事業費（広域自治体における資源循環システムの構築に向けた実証事業）」への応募

事業の目的（概要）

日本国内における動脈事業者が利用可能な再生プラスチックをはじめとする再生材の供給量を大きく拡大していくため、**廃棄から再資源化までの工程（分別、回収、運搬、処理）における実証**を行い、再生材の回収・再資源化、製造工程へ回す一連の流れの高度化に資するスキーム構築のコスト構造や現状を明らかにし、再生材利活用におけるボトルネックや、ボトルネックを解消するために必要な施策の分析と産官学連携で供給量拡大を実現していくための課題分析等を行う。

主な事業（大都市圏での資源循環モデル）

- ①人口密集地域における効率的な回収ルートの新規構築
- ②高効率処理技術の実証と運用コスト分析
- ③大都市圏内の製造業との連携による再生材の活用モデルの構築

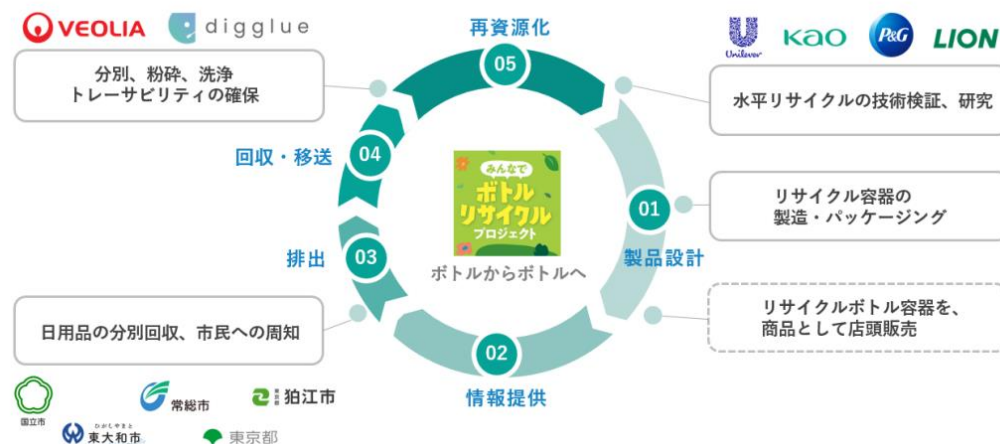
日用品容器包装に関するリサイクル課題整理の検討例

- 個社もしくは個社グループでの取組の例

マテリサ

みんなでボトルリサイクルプロジェクト

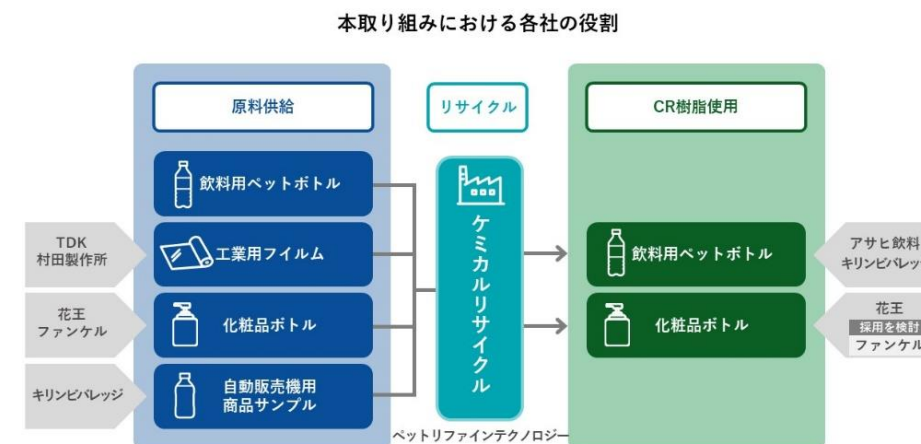
東京都 革新的技術・ビジネスモデル推進プロジェクトに係る事業



ケミリサ

ケミカルリサイクル材料を非食品用途PETへ

国内初飲料用ペットボトル以外のPET樹脂から飲料用ペットボトルへ再生



★報告書に今後の課題が整理されている

https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kankyo/-_2024-3-_final2

<https://www.jeplan.co.jp/2025/04/21/17464/>

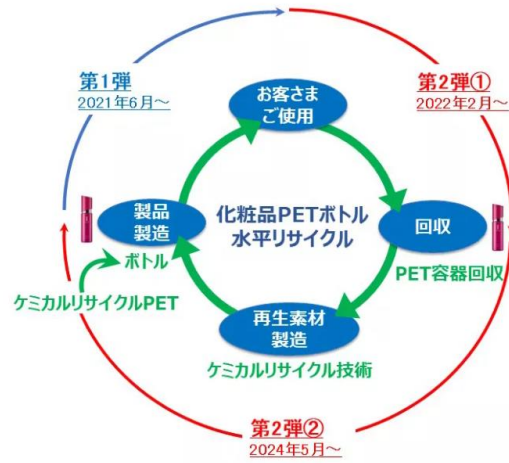
日用品容器包装に関するリサイクル課題整理の検討例

- 個社もしくは個社グループでの取組の例（続）

マテリサ

化粧品プラスチックボトル水平リサイクル

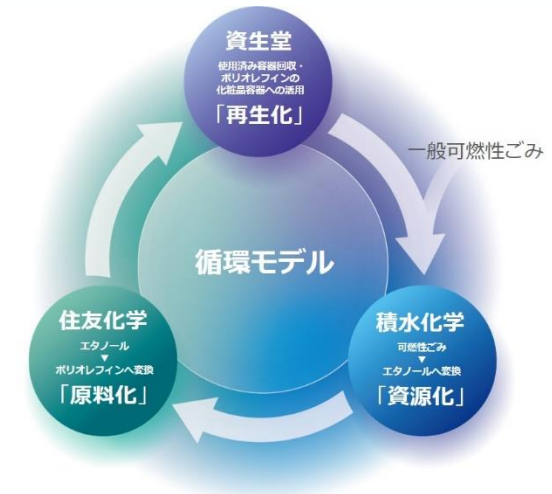
2021年6月から実証実験を開始



<https://www.kao.com/jp/newsroom/news/release/2024/20240528-001/>

ケミリサ

プラスチック製化粧品容器の新たな循環モデル構築



<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003437>